

の時期から神戸港灣にも不況來の海鳴りが高まり、刻々にその暴威を振舞ひ始めたのである。資本の攻勢が日々暴行化す度合に隨つて、日本無産階級の成長努力は異常の困苦を加重し、暴虐なる泥靴の躑躅は憤激の焦點となつた。かゝる受難期に、我々は第二回大會の基石を歩武し、日本無産階級政治勢力の磐石を不拔たらしむべく戦線擴大の努力を固ひつゝ、かくて海上運輸産業戦線の組織任務は堅實果敢に進められてきた。…見よ！…

日本港灣従業員組合聯盟の旗の下に海上労働者の巨大なる城砦を楯として、我々の旗は進む。

二 組 織 狀 勢

組織の擴大成果は同志會の活動方針及びそれが効果指数に等しい。昭和四年十二月六日創立(第一回)大會に八十一名の前衛は、昭和六年四月十九日第二回大會に一千三十九名を算し、昭和七年四月十二日現在一千八百三十四名を擴充した。

此の素晴らしき進展の旗を見よ！神戸港内に於ける我々の船艦こそ、我々の城砦軍艦である。

三 戦 績 批 判

一、同一労働に同一賃銀を支給せよ！これは最低生活權の確立條件だ。我々の努力は主要方向をこゝに置き、あらゆる機會を通じて、その實現の成就に努めた。労働時間の制限また然りである。無料職業紹介、無料診療所設置の促進運動、港内労働者保護法制定促進運動等は、我々が日常當面する政治經濟的闘争の主要眼目を成してゐる。我々はこゝに第三回年次大會を歩武するに當つて一切の整備を盡し、暴威資本の攻勢に應戦と爆撃の建業を期すものである

昭和七年四月十七日

日本港灣従業員組合聯盟

神戸海友同志會

諸 會 議 報 告 — 昭和六年度 —

A

評 議 員 會

第 一 回

日 時 六月十七日 出席者—二十四名

決議事項 一、事業及會計 二、聯盟主事銜の件 三、人事の件(新評議員推薦) 四、茶話會日定

第 二 回

日 時 七月一日 出席者—三十名 傍聴者—五十名

決議事項 一、上組問題(待遇改善)對策協議

第 三 回

日 時 八月九日 出席者—三十四名 傍聴者—五十名

決議事項 一、ニッケル商會(減給反對)對策協議

第 四 回

日 時 (緊急)